



ユーラシアンホットライン

VOL-5

1998年4月発行

ユーラシアンクラブ会報の名前が変わります！

新会報名「ユーラシアン・フォーラム」（旧ユーラシアン・ホットライン）

昨年秋から、ニュースレター（当ホットライン）が発刊されたことに伴い議論に上っていたもので、各紙の基本的性格が

- ◆ニュースレター（ユーラシアンホットライン） ユーラシアに関わる短信、ミニ情報、速報提供（月1回発行）
- ◆会報（ユーラシアンフォーラム） ユーラシア各地の文化や社会、さまざまな活動、主張、論文など
執筆者の責任において掲載する（執筆者を明記、年3～4回発行）

ことから、ニュースレターを「ユーラシアン・ホットライン」、会報を「ユーラシアン・フォーラム」とすることになりました。
皆様の積極的な情報の提供、投稿をお待ちしています。

ニュースレター、会報のボランティア記者募集！

ニュースレターの取材グループが発足しました。情報収集担当者は、クラブ会員の井出晃憲です。
今後、情報通信ネットワークの充実に努めることにしており、ボランティアネットサポーターも募集します。
希望者はクラブまでご連絡下さい。

【予告】 会報「ユーラシアン・フォーラム」11号間もなく発行

次号の会報が間もなく完成しますが、一部抜粋してご紹介。内容のメインは「モンゴル特集」です。

モンゴルを訪れる観光客は年間1万人余り。旭鷲山初めモンゴル出身力士が有名ですが、在日留学生はモンゴル国約150人、内モンゴル約300人と推定されています。日本人と結婚したり、ビジネスで来日するモンゴル人も増えています。交流団体の紹介やインタビュー、モンゴルからの投稿などで日本とモンゴルの交流の一端を紹介します。

☆留学生ガンバートル君とのインタビュー記事

—自分で働いてでも日本に留学したいという若い人は多いんですか？

G. 結構いるんです。そのチャンスが本当に無いんです。来るまでのお金が無いし、保証人も必要ですし。アルバイトも自分で探すのは難しい。私も探してみたんです。妻も友達も皆探してみたんでわかるんですけど。それで働いて勉強した後でお金を返しましょうということになれば、それで呼べれば返すのは後でいいよということになる。

—自費留学生の基礎的条件を作るといことですね。

G. そうですね。

☆モンゴル通信／モンゴル科学アカデミーでチンギスハーンを研究する白石さん

「…いつもは過去のことばかり研究していますが、今回は目を現在に転じて、モンゴルの生の姿をお伝えしたいと思います。…私がモンゴルと付き合ってきた10年間は激動の時代でした。世界で2番目の社会主義国でしたが、1990年に民主化されて複数政党による大統領制になりました。…改革の悪い部分もお話ししましょう。」

☆キルギス人留学生・テムールベクさんの投稿

「私は、ほぼ1年ほど日本で生活する幸運に恵まれたが、キルギス人であるが故、言わせていただくなら、自分が日本人のような気がしたものだ。何というか、そう、砂の中の砂粒、集合体の一要素、意識の地下水脈で通じ合う、言葉にならない感覚。…所詮感じなのだから。本当のところ、違うかもしれないし、説明もつかない。…日本人がどう弱点を克服し

いくのか、キルギス人は見守っている。日本はキルギスの手本となるだろう。しかし、そのためにも、人と人が出会わなければならない。」

この他、ウズベキスタンからの投稿やウズベキスタン大使館一等書記官からの提供記事、「ヨーロッパ唯一の仏教国—カラムキア」、「ネパール紙の販売で村の支援」といった投稿、アムールの少数民族村・シカチアリヤンの小学校へ文房具の寄贈を続けている会員からの報告、ユーラシア芸能祭の企画提案など盛りだくさんです。

「オゲンキデスカ？」 ～ビシュケク（キルギスタン）のヌルディンよりメール到着

4月3日（金）大野さん、ユーラシアンクラブのみなさんこんにちは。オゲンキデスカ？（以上、日本語！）



相変わらず元気です。みなさんは、いかがお過ごしですか。

お元気でがんばっていらっしゃるとお思います。お仕事の具合はどうですか？

いま私は自分の国で、日本で過ごした期間のことを考えています。故郷に帰って初めてわかることもあります。皆さんのいる日本は美しいところだった。素晴らしいところで暮らす経験ができたのだと思います。もし、再び日本を訪れる機会に恵まれたら、絶対にまた行きたい。

今のところ、特にニュースはありませんが、一つお知らせします。それは…私は転職しようと思っているのです。私は現在少し健康を損ねています。でも大丈夫、心配しないでください。

みなさんは、いつキルギスに来てくださいますか？「行こう！」と決めたら、是非知らせてください。私にできることがあれば、いつでもご相談にのりますから、連絡をくださいね。

皆さんは、留学生として訪れた私を歓待してくださり、友達として温かく接してくださいました。日本をより深く知る機会をたくさん与えてくださったことに、心から感謝しています。どうもありがとう。

「ジャア、マタネ。デハ、マタ！ ガンバツテクダサイ（日本語）」

キルギスタンよりー ヌルディン・シャキロフ (Nurdin Shakirov)

◆ユーラシアンフォーラム（3月例会）でジュルディスさん（キルギス留学生／女性）発表

ユーラシアンクラブが月1回開催している情報交換・懇談会でキルギスの留学生ジュルディス（愛称ジカ）さんが「キルギスの文化／結婚と結婚式、葬式及び家庭の習慣」と題して発表しました。

「日本より5～7年は早い」と言う結婚年齢の比較から独特の略奪婚の現状など目に浮かぶような上手な日本語で約20分間の発表。その後、日本やサハ（ヤクート）の事情を紹介しあい、参加者一同大いに理解を深めました。

次回は4月12日（日）13時30分より代々木オリンピックセンターにて、サハ（ヤクート）の留学生が発表することになりました。新潟県でホームステイから帰ったばかりのナターリヤさんが、日本文化との違いを報告します。

今後もフォーラムは月1回定期的に開催予定。参加ご希望の方は、当クラブまでご連絡下さい。

◆日本 ウズベキスタン協会設立

近年の交流の進展と昨年来の政府のユーラシア外交推進の政策発表を受けて、政府関係者や政府機関関係者、ジャーナリスト、経済人、また元抑留日本兵らが協力して呼びかけ昨年11月設立されたもので現在会員募集中です。

[今後の活動]

遺跡見学や現地における人的交流、能など日本の伝統芸能の派遣、環境保全への協力、日本語教師の派遣や留学生のホームステイ等の受け入れ、元日本兵墓地の整備などがあげられています。

[組織]

会長 野田皓一（ジャーナリスト）

副会長 棚村浩三（ダイヤモンド社春秋会事務局長）

副会長 葛 信彦（ジャーナリスト）

事務局長 椋（小椋）計輔

問い合わせ先 事務局 〒100-0013 千代田区霞ヶ関1-4-2 ダイヤモンド社春秋会内

電話03-3504-6867、FAX03-3504-3360

◆<速報>

サハ自治共和国とキルギス共和国の留学生、計3人が新潟県・湯之谷村のクラブ会員の協力でホームステイを経験。「心のきれいな人ばかりで感動した」と報告がありました。

新潟県小出町、湯之谷村とユーラシアンクラブの関わりはますます密接になっていますが、今回留学生らがお世話になったのは、湯之谷村前助役でクラブ会員星正和さんと野菜加工工場グリーンファーム代表でクラブ会員の橋守さん、ホームステイ先になっていただいた桜井良裕さん、野菜加工のアルバイトをさせていただいたグリーンファームと湯之谷村山菜加工農業共同組合(上重正一組合長)の皆様、小出町の医師でクラブ会員庭山昌明氏ら。

3人は1週間ほどの短期間でしたが、都会とは違ったもう一つの日本を垣間見ることができ、中身の濃い思い出と感動を得たようです。



日本人よりお似合い?

◆モンゴル出身力士ファンクラブ会員を募集

モンゴル交流団体が呼びかけ人となって旭鷲山、旭天鵬、旭天山の三力士を応援するファンクラブ会員を募集しています。会費は年5千円(A会員)、1万円(B会員)に法人・団体会員の3種類。

特典は力士との交歓会(年1回)のほか力士のテレフォンカード、会報、番付表の配布など。

問合せ・申込はモンゴル出身力士ファンクラブ事務局まで 03-3580-1355(TEL) 03-3580-2090(FAX)

◆ふれあいイベント「モンゴルの遊び」開催

国立オリンピック記念青少年総合センターが、横浜国立大学のモンゴル人留学生の協力でモンゴルの遊びを子どもたちに紹介、体験してもらうイベントを行います。

日時:4月25日(土)午後2時~4時、場所:同センター交流プラザ

申込:03-3467-7201(電話で)、対象は小中学生とその家族、会費100円

◆アイヌの浦川さん自伝的小説を執筆中

アイヌの浦川治造さんが、これまでのご自分の来歴“いきざま・くいざま”を描いた自伝的小説を執筆中です。「ポンヘカチ(子ども)からオンネエカシ(老年)までのあるアイヌの一生」というのが仮題。

このたび執筆に際し、取材のためのカンパを募っています。エゾジカを素手で倒したり、猟銃をかついで中学校に通ったりしたという武勇伝が真実であることを示すために、故郷に人を連れて行き、地元の人に証言してもらうことを予定しています。

カンパの送り先: 大月信用金庫 本店 (普)0283382 ウラカワハルゾウ (一口いくらでも)

キルギスタン・ビシュケク第一寄宿中学校から手紙が届きました!

敬愛するみなさま!

私達はキルギス共和国のビシュケク首都の第一寄宿中学校の生徒達で、日本語を六年間学んでいます。

私達は日本語と日本文化に興味を持って、沢山の日本語友達があるのが嬉しいです。

キルギスタンという私達の国はたいへん美しい国で、中アジアの古代のシルクロードに

位置します。

私達はあなたの文通友達になるのが嬉しいです。

お返事を待ちかかっています。どうぞよろしく、お願いいたします。

敬具。

ビシュケク第一寄宿中学校の生徒達、
宇村氏 2000.10.17 03-7071

ユーラシア ニュース

◆モンゴル人留学生交流会「ハワリン・バヤル」に140名参加

当クラブ共催で行われた「ハワリン・バヤル」が盛況のうちに終了しました。当日はモンゴル料理を楽しみ、在日モンゴル国・内モンゴル自治区の留学生やモンゴル好きの方々が交流しました。

◆民博で特別展「草原の遊牧文明—大モンゴル展」

期間 7月30日(木)から11月24日(火)
 開館時間 10時から17時(入館は16時半まで)
 休館日 水曜日(祝日の際は、翌日休館)
 観覧料 一般 1100円 高校・大学生 650円 小中学生 350円
 場所 国立民族学博物館 大阪府吹田市千里万博公園10-1
 お問い合わせ先 管理部庶務課 普及係 06-876-2151(代表)

遊牧の暮らしから遊びまで、モンゴルをさまざまな角度から理解しようという展覧会です。

ニュースレター 継続購読のお願い

昨年11月創刊の本紙も、今回で第5号となりました。出来るだけ多くの方々に情報をお届けしたいと願い、会員以外の方にもお送りしてまいりましたが、郵送料その他の経費等の都合により、会員以外の方への無料送付は今回までとさせていただきます。今後も購読をご希望の方は、お手数ですが当クラブまでお申し込み下さるようお願い申し上げます。

クラブ正会員及び、会報購読会員の皆様には今後も継続してお送り致します。

◆ただ今会員、会報会員、ニュースレター購読者(1部100円)

/送料込み)、ボランティア募集!

多岐にわたるようになったクラブの活動を財政的に支えるクラブの正会員等を募集するカラーパンフレットが昨年暮れに完成しました。一人でも多くの方に目を通していただきたいと願っており、パンフレットの配布に皆様のご協力をお願いします。

<クラブに関するお問い合わせ先>

〒215-0013 神奈川県川崎市麻生区王禅寺 2485-2-204

TEL 044-965-2536 FAX 044-965-2537

E-MAIL PAF02266@niftyserve.or.jp

ユーラシアンクラブ 神奈川事務所 大野まで

インターカレッジ文化講座

“国家、民族、宗教を超えて”

1998年度の文化講座がスタート。ふるってご参加下さい。

前期 4月のテーマ<民族と国家の狭間>

4月11日(土) 「オロチョン人として生きて」
 岩間 典夫 / オロチョン族として生きた日本人

4月17日(金) 「ユーラシアの未来と北朝鮮の行方」
 辺 真一 / コリア・レポート編集長

4月24日(金) 「渤海王の使者」
 高橋 義夫 / 作家

5月のテーマ<ユーラシアの潮流>

5月15日(金) 「文明の交差点で考える」
 服部 英二 / ユネスコ事務局長顧問

5月22日(金) 「世界史を変貌させたモンゴル」
 杉山 正明 / 京都大学教授

5月29日(金) 「イスラムとトルコ民族主義の潮流」
 坂本 勉 / 慶応大学教授

6月度 <フィールドレポート>

6月 5日(金) 「キルギス人の暮らしと変化」
 吉田 世津子 / 都立大学博士課程

6月12日(金) 「シベリア少数民族の英雄叙事詩」
 山下 宗久 / 千葉大学博士課程

6月19日(金) 「イテリメンの暮らしと言語」
 小野智香子 / 千葉大学博士課程

後期 10月のテーマ<ユーラシアの古代文字>

10月17日(土) 「ユーラシア古代文字の系譜」
 森安 孝夫 / 大阪大学教授

10月23日(金) 「モンゴル高原の古代トルコ語碑文調査」
 片山 章雄 / 東海大学助教授

10月30日(金) 「ユーラシア古代“記号文字”の謎」
 宇田川 洋 / 東京大学教授

11月のテーマ <歴史を作った人々>

11月13日(金) 「李陵と司馬遷」
 林 俊雄 / 創価大学教授

11月20日(金) 「ユーラシアの交易とソグド人」
 吉田 豊 / 神戸市外語大助教授

11月27日(金) 「マルコポーロの謎」
 杉山 正明 / 京都大学教授

12月度 <フィールドレポート>

12月4日(金) 「ダラベルジンテベ(ウズベキスタン)の発掘調査」
 堀 暁 / 古代オリエント博物館研究部長

12月11日(金) 「内蒙古大岱地区遺跡群調査について」
 大貫 脩夫 / 東京大学助教授

12月18日(金) 「寧夏回族自治区原州遺跡群の調査」
 谷一 尚 / 共立女子大学教授

■ 会場 東京芸術劇場(池袋)
 山手線 池袋駅下車 西口徒歩3分
 ■ 日時 平日=6時半~8時半、土曜日=2時~4時
 ・ 問い合わせ ユーラシアンクラブ 大野まで